

科目名	地域創造特論	担当教員	吉澤保幸
科目属性	関連科目	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  地域（コミュニティー）とは何か、その特性、構成・共生要素等を整理した上で、地域が直面している課題を正確に認識し、その解決策を探し出す方法論を模索し、地域住民や行政等様々な地域主体の協働の中で、それを具体化していくプロセスを幾つかの事例を通して学び、SDGsとも関連させての「地域創造」とは何か、その歴史的意義、日本における実践の重要性等を掴み取っていく。  同時に、学修の過程で、レポートやスクーリングを通して受講生自らの関心のある地域課題に置き替えて、受講生自らが具体的な課題解決策の探究ができるための指導や可能であれば、スクーリングでのワークショップなど協働的に学ぶ場を提供していく。</p>			
<p><b>【授業計画】</b>  &lt;授業計画&gt;  1. 地域社会の存立構造と特性の認識（第1回～第2回相当）  ①地域、共同体とは何か？その多層性とは？（歴史・文明論的、社会学的、地理学的等の観点から）  ②ソーシャルキャピタル論からみた地域社会の特性  ③近代文明における地域の位置づけと変容、そして歴史的意味  2. 地域社会における教育のあり方（第3回相当）  ①非文字の教育と文字の教育とは？文明としての教育と文化としての教育とは？  ②三澤勝衛の地域教育論から学ぶ  3. 地域課題の抽出と地域創造へのキーワード（第4回～第8回相当）  ①地域課題とは何か？その普遍的意味を探る  ②課題解決と地域創造に向けてのキーワードを解きながら、その文明論的意味を考察する  —「確かな未来は懐かしい過去にある」とは？  —共生、場所文化、いのちの循環、温かなお金（マイクロファイナンス、ローカルファンド、電子地域通貨）、森・里・川・海連関、SB・CB、労働と手仕事・手間、祭・祈り・結い・講、SDGs等（SB=ソーシャルビジネス、CB=コミュニティービジネス）  4. 地域課題への具体的対応からの学び（第9回～第13回相当）  ①限界集落への対応—世代の断絶をどう繋ぐか、農的暮らしの再生（上野村、等）  ②中心市街地の活性化—賑わいの創出と場所の記憶の蘇生（高崎市、宇和島市）  ③エコビレッジ構想の意義—小さな循環による地域の自立と連携、新たな公共の形成、小規模多機能自治の実装（南砺市等）  ④お金の地域内循環—ローカルファンド設立の意義（東近江市、南砺市、西条市等）と電子地域通貨導入の意義（さるぼぼコイン等）  ⑤地域の連携の意味—地域循環共生圏の意義  5. 地域創造と教育の役割（第14回～第15回相当）  ①地域創造とは何か ②地域創造における教育の意味を再考する</p>			
<p><b>【評価方法】</b>  「スクーリング評価」（25%）、「レポート評価」（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で総合して評価する。</p>			
<p><b>【教科書】</b>  ①「ローカリズム原論」（著：内山節）ISBN：9784540121210  ②「共同体の基礎理論」（著：内山節）ISBN：9784540092152  ③「グローバル化の終わり、ローカルからの始まり」（著：吉澤保幸）ISBN：9784766785203  ④「里山資本主義」（著：藻谷浩介）ISBN：9784041105122  ⑤「生命文明の時代」（安田喜憲ほか編）ISBN：9784802095907</p>			

**【参考図書】**

「内山節著作集」（著：内山節）ISBN：9784540141409

「グローバル化の終わり、ローカルからの始まり」（吉澤保幸）、「里山資本主義」（藻谷浩介）、  
「生命文明の時代」（安田喜憲ほか編、第4章＜吉澤執筆＞）、「内山節と語る未来社会のデザイン  
①、②、③」

「限界集落の真実」（山下祐介）、「地元学からの出発」（結城登美雄）、他

Ⅲに記述の文献の他、スクーリング時に適宜言及予定